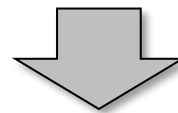


基本理念 人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、
互いに認め合い、自分らしく学び続ける人を育てます

基本理念の実現に向けた施策の基本方針



基本方針1

学びの機会を守る学校教育 – いじめ対策・不登校児童生徒等支援

基本方針2

主体的に学ぶ意欲を伸ばし、よりよく生きる力を育む学校教育

基本方針3

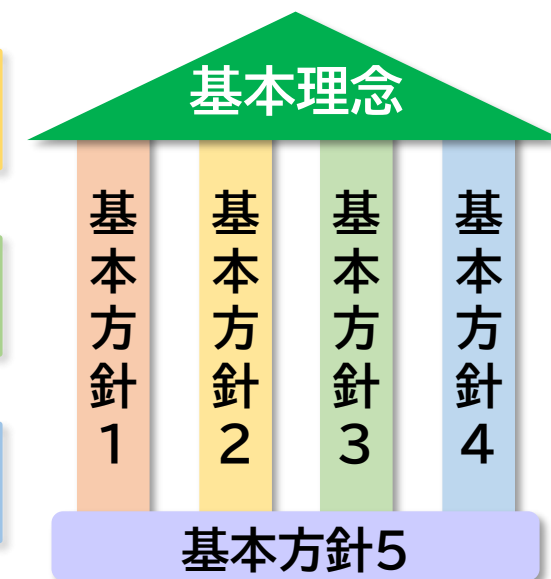
多様性を尊重し、ともに学び合う学校教育

基本方針4

学びを通じて、人と地域がつながる生涯学習

基本方針5

学びを支える持続可能な体制づくり



基本方針1 学びの機会を守る学校教育 ― いじめ対策・不登校児童生徒等支援

- ・ 児童生徒一人ひとりが幸福や生きがいを感じ、ウェルビーイングの高い状態を実現するためには、すべての児童生徒が学びの機会を保障されていることが不可欠。
- ・ 児童生徒から学びの機会を奪ういじめへの的確な対応や、不登校児童生徒が安心して自分らしく学ぶことができる環境整備に、より一層取り組む。

【主な施策】

- いじめ防止等対策の推進
- 不登校児童生徒支援の推進
- 保護者の不安や悩みに寄り添う取組の推進

(参考)第2回検討委員会における意見

- 病気、災害、不登校など、どんな状況になっても復活できる社会・学校であることが大切。
- 教科学習に限らず、大学のセミナーや仕事の体験など様々な場面が学びになる。教科学習でつまずいた子が、他の学びに興味を持つかもしれない。
- 不登校などの事情を持つこどもたちへの支援体制をさらに強化し、誰一人取り残さない教育を実現するということは、多様な背景を持つ保護者にとっても切実な願い。

基本方針2 主体的に学ぶ意欲を伸ばし、よりよく生きる力を育む学校教育

- ・自ら学び続ける意欲を持ち、多様な他者と積極的に関わり合いながら、課題の解決や未来の社会を作り出す力につなげていく姿勢を育むため、自ら問いを立て、他者と協働しながら答えを探究する主体的・対話的で深い学びの機会をさらに充実させる。
- ・新たな知識や技能を得て応用することができる「確かな学力」や、健康で生き生きと過ごすための「健やかな体」といった、よりよく生きる力を育む。

【主な施策】

- 国際的視点に立った教育の推進
- 仙台自分づくり教育の推進
- きめ細かな指導の充実
- ICTを活用した個別最適・協働的な学びの推進
- 食生活・生活習慣づくり
- 運動の日常化の推進

(参考)第2回検討委員会における意見

- こどもたちが、探究的に学ぶことや内容を調整しながら学ぶことなど、学び方を身に付けることも大切。
- 「どうしてこれを学ぶのか」という学ぶことの必然性を見童生徒が理解することで、より意欲的に取り組むことができるのではない。
- 学びの充実や授業改善、教員の業務負担の軽減を進めるためには教育DXの推進が欠かせない。
- 心と体の育成の両立が大切であり、生きる力の土台を育てる食育は重要。

基本方針3 多様性を尊重し、ともに学び合う学校教育

- ・ 多様性に目を向け、自他を尊重し認め合う「豊かな心」を育む。
- ・ 様々な環境にある一人ひとりが、自らの可能性を広げていくことができるよう、自分らしく学べる環境を整える。

【主な施策】

- 互いを理解し思いやる心を育む教育の推進
- 特別支援教育の充実
- 帰国・外国人児童生徒支援
- 夜間学級

(参考)第2回検討委員会における意見

- こどもたちが、同級生や高齢者などの身近にいる多様な他者を意識し、障害や年齢などのあらゆる違いを超えた交流が求められていると感じる。
- 「知徳体」をバランスよく育成するのは理想だが、難しい。心の成長が、自然と学びに向かい、自分の健康も意識するようになると思う。
- 学びに対するニーズはひと昔前よりも多様化している。画一的な教育での対応が難しく、一人ひとりの状況に応じた教育の重要性が増している。

基本方針4 学びを通じて、人と地域がつながる生涯学習

- ・ 障害の有無や国籍にかかわらず、こどもから大人まで、それぞれのライフステージに応じて学び続けられる環境を整える。
- ・ 学びの成果を地域に還元したり、児童生徒が学校で培った探究的な学びの姿勢を発揮できる仕組みづくりに取り組む。

【主な施策】

- 市民の主体的な学びの支援
- 社会教育施設の専門性を活かした多様な学びの提供
- 地域における学びと実践の充実
- 歴史や文化を活かした学びの充実
- アートを活かした学びの創出

(参考)第2回検討委員会における意見

- 市民センターなどの活動では、参加者の世代などが固定化する傾向にある。多様な人の参加を促すために、特徴・魅力ある活動をしている団体を見つけたり、つなげたりすることも重要。
- 学校教育と、学校を終えた後の学びの連携の充実が大切。市内に多数ある大学という資源を、こうした学びにつなげていくことが重要。

基本方針5 学びを支える持続可能な体制づくり

- ・ 各種教育施策を効果的に実施するために、基盤となる体制づくりや施設整備に取り組む。
- ・ 教職員をはじめとする教育を支える人材が、意欲的に教育活動に取り組める環境を整える。
- ・ 学校と地域社会、家庭が協働し、社会全体でこどもを育てる環境を整える。
- ・ 教育を支える施設やICT環境などの適切な整備に取り組む。

【主な施策】

- 一人ひとりに向き合うための教職員の働き方改革
- 学校規模適正化の推進
- 社会教育に携わる職員・地域人材育成
- 地域と共に歩む学校づくりの推進
- 家族がともに学び、触れあう機会づくり
- 学びを支える経済的支援
- 学校・社会教育施設整備
- ICT教育基盤整備

(参考)第2回検討委員会における意見

- アンテナを高くして一生懸命やるほど、現場は苦しくなる。現場のバックアップ施策が欲しいところ。
- PTAやコミュニティ・スクールが学校と地域の橋渡しとして、教職員の負担軽減に貢献できる余地があると思う。
- 主体的な学びの拡充には、それを支える情報インフラの安定化も必要。